

## 駐日デンマーク大使ご来館

2月10日、デンマークのフレディ・スヴェイネ駐日大使が「稲むらの火の館」へ来館されました。早朝、和歌山県に入られた同大使は、この日、日高郡美浜町、日高町でのヨハネス・クヌッセン機関長の慰霊祭等へ参列され、知事表敬訪問の途中、立ち寄られたものです。

西岡町長はじめ町関係者と懇談し、3D映画鑑賞や館内を見学された後、中庭で「トサミズキ」を記念植樹されました。



同大使は明るく朗らかな方で、帰りがけ正門近くで、見学に来ていた小学生3人に名刺を渡すというサプライズもありました。この小学生も良い記念になったことでしょう。

昨年以来、来館された駐日大使は8人目です。「稲むらの火の館」も国際的な施設になったのですね。たいへん嬉しいことです。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 「やかただより」が 国立国会図書館で収集されます

「やかただより」は、前号で64号を数えましたが、この程、国立国会図書館収集第二係から収集の対象にしたいとの連絡がありました。通常こうしたチラシのようなものは対象外だそうですが、資料的価値があるとのことで要請があり、第1号から全て送付しました。

## 「世界津波の日」制定記念レセプション

1月21日、東京外務省飯倉公館で、外務大臣主催の「世界津波の日」制定記念のレセプションが開催されました。岸田外務大臣はもちろん、石井国交大臣、河野防災担当大臣、二階自民党総務会長らが出席、挨拶され、林経産大臣の発声で乾杯しました。このレセプションには駐日大使が約100名、大使代理が約450名出席されました。昨年「館」へ来館されたトンガ王国の女性大使が大使代表で挨拶され、その際に「稲むらの火の館」訪問時の話をされたのを聞いて、たいへん感激しました。



開会行事が済んですぐに、岸田外務大臣が和歌山県・広川町の展示ブースへ来られ、西岡町長としばらく懇談されていました。



「世界津波の日」が「稲むらの火」の11月5日になったことで、同時に「稲むらの火の館」もそのシンボリックな存在としてとらえられているようです。当館の責任も重く、津波防災の啓発に一層取り組んで参ります。

## <館長の日記>

私は昨年7月6日から、北海道の陸別町へ旅行してきました。ご存じの方もおられるかもしれませんが、陸別町は日本で一番寒い町というのがキャッチフレーズの町です。今年は2月2日に-28.2℃を記録したそうです。

私が何故この町へ行ってきたのかと言いますと、この町を開拓したのが「関寛斎」という人物だからです。銚子の町医者であった関寛斎は、「濱口 梧陵」から経済的な支援を受けて長崎でオランダ医学を勉強して蘭学医になり、その後、徳島藩の蜂須賀家の御典医として徳島へ行きました。徳島と広村は紀伊水道をはさんで、目と鼻の先です。関寛斎は暇があれば広村に来て梧陵といろいろ話しをされたという記録が残っています。



関寛斎は72歳になって北海道の陸別町の開拓に入り、10年間で2千haの土地を開墾して関牧場を開きました。

陸別町には、「関寛斎記念館」があり、町立診療所は「関寛斎診療所」という名前がつけられています。

陸別町教育委員会の職員の方に各史跡を案内していただき、教育長とも1時間以上懇談の場をもっていただきました。向う様も濱口梧陵の話を知りたいということで、有意義な情報交換となり、双方の記念館の資料も交換しました。

関寛斎が開拓したのは2千haの土地ですが、ちなみに広川町の全耕地面積は696haです。陸別町ではこの土地を現在牧草地として活用されているそうです。

陸別町で関寛斎の足跡を訪ね、濱口梧陵の人材育成の事績を検証したいという私の長年の夢が叶えられました。

## [お客様の声]

- 1、「逃げる」の大切さがわかりました。感動しました。ありがとうございました。  
(和歌山市 男性)
- 2、今まで知らなかったことが、たくさん知れて良かったです。広村堤防は、町や人々を救った命綱なんだなと思いました。  
(神戸市 女性)
- 3、広島から来ました。小学校の子供が、梧陵の事を知っていました。とても勉強になりました。広くみんなが知って災害にあっても最小限の被害になれば良いと思います。  
(広島県 男性)
- 4、今、タイに住んでいます。見学していると、息子が「この物語、学校で習ったよ。」と言い出してびっくりしました。世界中で読まれているのですね。とても良かったです。  
(タイ 親子3名様)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

最近、これまでと違ったメディアへの掲載や取材を受けるようになっていきます。読売新聞では全国欄のコラムや教育面に「稲むらの火の館」が掲載されました。週刊新潮も取材に来られました。

「世界津波の日」制定により当館への注目度が変わってきているのでしょうか。お客様も新聞やテレビを見て来てくださる方が目立っています。

### <稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL: 0737-64-1760 / FAX: 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

\*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29-1/4）

\*記念館だけの入場は無料です。